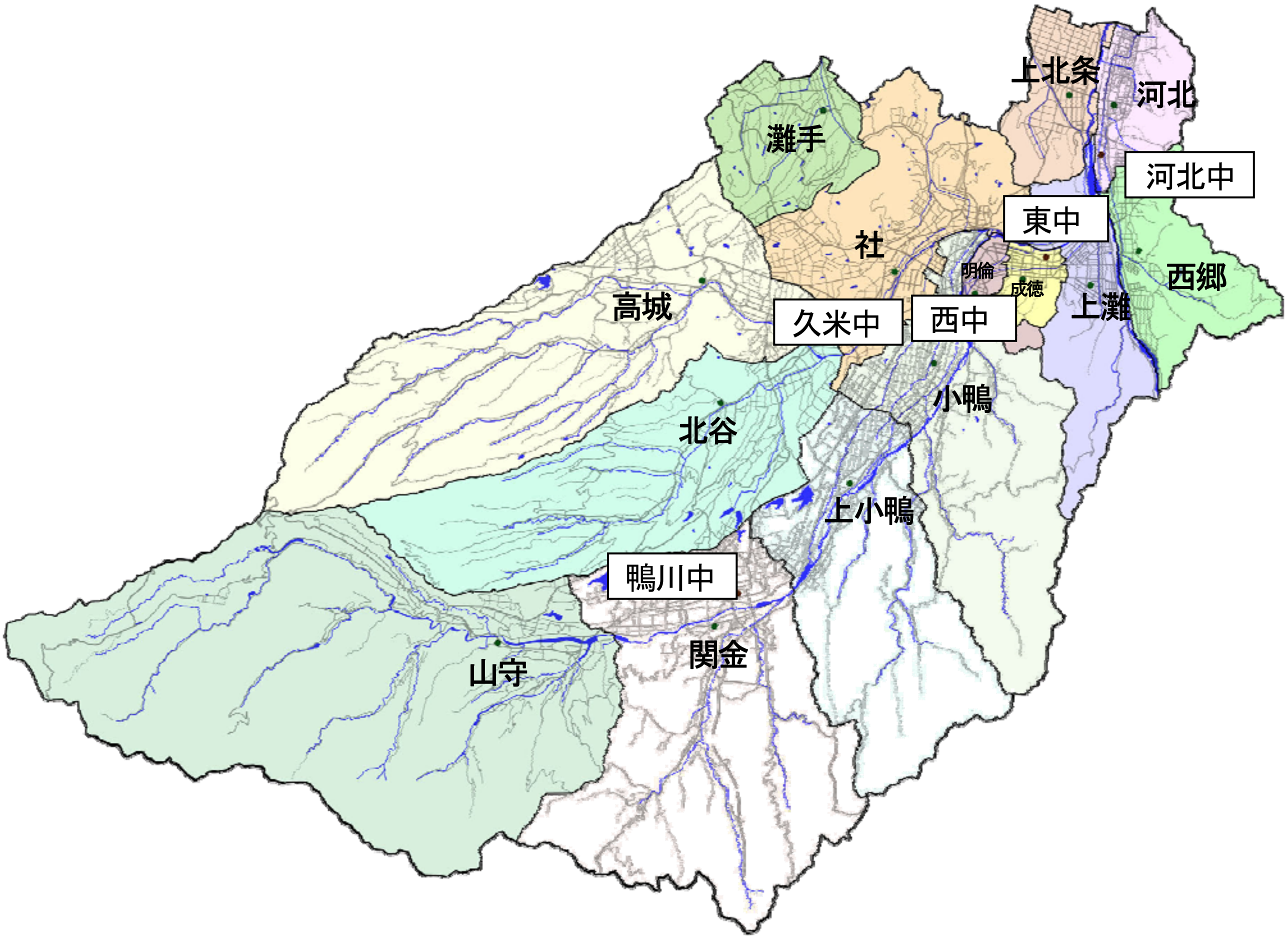
別　冊

「倉吉市立小・中学校の適正配置」について



平成 26 年 2 月 14 日　午後３時～５時

倉吉市役所　第２会議室　本庁舎３階

目　　次

倉吉市小・中学校の適正配置の具体案【草案】（全説明会で使用）・・・　Ｐ　１

パワーポイント資料（再編対象小学校区別説明会で使用）・・・・・・　Ｐ１１

中学校区別説明会の概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ｐ１５

再編対象小学校区別説明会の概要　・・・・・・・・・・・・・・・・　Ｐ２０

倉吉市民シンポジウムの概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ｐ２３

倉吉市立小・中学校の適正配置の具体案【草案】

倉吉市教育委員会

１　経緯

倉吉の教育をよりよくするために、平成２０年に「明日の倉吉の教育を考える委員会」が設置され、「学校教育の充実を図るための今後の小中学校教育のあり方」「学校教育の充実を図るために必要な基盤整備」について、６つの柱と１３項目の提言が出された。その中で、倉吉の教育の向上のために「子どもたちが望ましい成長をするための学校・学級の適正な規模、校区のあり方について」検討を行うことが求められた。

それを受けて、提言のうち教育の内容については、平成２３年２月２４日に倉吉市学校教育審議会から「倉吉市教育振興基本計画の学校教育に関わる内容」についての答申が出され、さらに、平成２４年２月２１日「倉吉市立小・中学校の適正配置等について」の答申をいただいた。

２　小・中学校適正配置に関する基本的な考え方

（１）児童・生徒数の推移

総務省の発表した将来の我が国の人口推移は、現在の１億２千万人の人口は８千万人まで減少すると予想され、倉吉市も例外ではない。倉吉市児童数は平成１０年度から２０年度までの１０年間で３，４６６名から２，７７２名と６９４名減少し、平成２４年5月１日現在２，５３５名である。平成２０年から２４年の倉吉市出生数は４５５～３９７名と約４００名となっており、第１１次倉吉市総合計画では年少者（０～１４歳）人口の減少率を１９．７％とみている。そこから推計すると平成４０年度は２，０６１名になると推定される。児童数の減少は今後とも続くものと予想される。

（２）学級規模に関する基準

１学級に少なくとも20人の児童生徒が必要である。

（３）学校規模に関する基準

①　小学校　最低、１学年１クラス以上を構成できる小学校（６学級以上）とし、複式学級の解消を図る。
適正化すべき小学校　　児童数１２０人未満（１学級児童数　２０人～４０人（３５人））

②　中学校　１学年２クラス以上を構成できる中学校（６学級以上）が望ましい。
適正化すべき中学校　　１学年２クラス未満

③　小学校、中学校とも１学年２クラス以上が望ましい。ただし、倉吉市の場合は、状況に応じて１学年１学級でもやむを得ない。

（４）通学に関する考え方

①　小学校では、概ね４ｋｍ、徒歩で１時間以内に学校があることが望ましい。
②　中学校では、概ね６ｋｍ以内に学校があることが望ましい。
③　山間部では、通学距離よりも通学時間を考慮する必要がある。
④　適正配置に伴って、児童生徒や保護者に過度の負担をかける場合は、負担軽減策が必要である。
⑤　通学距離や通学路の安全性に問題がある場合は、通学区域の見直しを検討することも必要である。
⑥　通学路の安全対策についても十分な配慮が必要である。
⑦　通学距離、通学方法等により、就学する学校を選択する地域も考える必要がある。

（５）校区の在り方（分散就学及び分散進学）

①　基本的に、一つの地区公民館の対象区が一つの小学校区又は中学校区に含まれることが望ましい。
②　通学距離、通学方法等により、一つの地域が複数の小学校区又は中学校区に就学及び進学する場合もある。
③　通学距離、通学方法等などを考慮し、学校選択地域を設定することも必要である。

（6）地域との関係

①　学校は地域のコミュニティの拠点であるため、地域特性や地域コミュニティへの配慮が必要である。

②　地域と連携した教育活動を行うことで、学校の活性化が地域の活性化に結びつくような環境づくりが求められる。

③　人口減少に伴い、地域の捉え方を拡大することも必要である。

④　市民は自治公民館或いは地区公民館を単位として生活しているが、今後複数の地区公民館の対象区が一つの小学校区となることを踏まえ、地区公民館の対象区と小学校区とは別の観点から考えることが必要である。

（7）中学校について

①　中学校の統合について

現在のところ、５中学校体制を維持していくが、将来的に集団としての切磋琢磨する力、或いは部活動など課題が出てきた場合、中学校の統合も視野に入れておく必要がある。

②　小学校区の変動に伴い、中学校区も選択地区を設定するなど、状況に応じて対応をする必要がある。

（8）適正配置の推進に向けて

今後の適正配置の推進にあたっては、次のことについて十分留意する必要がある。

①　通学について　　遠距離通学のための対応
スクールバス又は路線バス利用者等のバス代補助、デマンドバスの利用
放課後の児童の待機場所の確保　　児童センター・放課後児童クラブ等の充実
冬季間の寄宿舎利用

②　地域について　　隣接区域における学校選択制の検討 、通学距離等を考慮した校区の指定

③　移行について　　移行に当たっては激変緩和措置などを考える必要がある。

3　具体化のための取組み

（1）市報による周知と説明会の開催

同答申の概要を倉吉市報（平成２４年４月号）で市民に周知するとともに、同年４月～８月にかけて、市内１４小学校区で住民説明会を実施。　（参加者　延べ７１８名）

（2）説明会での意見集約と論点整理　　議会に報告するとともに市報やホームページで市民に周知

（3）市役所内部協議　　総合政策課、財政課、子ども家庭課、観光交流課、防災安全課と協議

（4）市民への情報提供　　市報やホームページで論点整理したものを掲載

（5）各種会合での説明、意見聴取（小中養 PTA 連合会、公民館関係、自治公民館連絡協議会等）

（6）倉吉市民シンポジウムを開催し、市報や CATV で周知　「倉吉市立小中学校の適正配置等について」

4　説明会を終えての主な意見

・再編は推進すべきだ。（過半数を超える回答）
・小規模校での教育を大事にすべき。切磋琢磨する必要はなく、人間の基本的な躾が大切。
・１地区に１小学校はあるべき。地区振興のためであり、子どものためでもある。
・出身校や子どもの通う学校がなくなるという地域感情に配慮が必要。
・小学校・中学校と別れるのは反対。中学校の再編案と並行して考えるべき。
・通学方法、通学時間等子どもの負担が増えることへの不安。保護者の負担増に配慮が必要。
・保護者と地域では意見が違う。地域ですりあわせることも必要。
・スクールバスの経費等は結局市民の負担。財政面のことも同時進行で考えた方がよい。
・教育委員会で意見を集約し、早い段階で地域に提案してもらえるとよい。
・教育委員会だけではなく、行政全体で、町づくりや人口を増やすための議論をするべき。

５　課題の検討

平成２４年に開催した各地区説明会、関係団体からの意見聴取、市民シンポジウムなどを通して出てきた意見に対して、倉吉市教育委員会は次のような考え方で推進をしていく。

○　どの学校を統合するのか。

関わりの深い隣接した学校を基にしてできるだけ無理のない統合を考える。また、小学校と中学校との関係も考えて、できるだけ分散就学や分散進学がないように考える。

○　統合校の学校位置をどうするのか。

通学の方法、通学距離、地域の状況、現有施設の教育環境等を考えて判断する。また、新たな教育施設整備は極力控える。

○　統合は何時するのか。

平成２５年４月から地区合同（中学校区）で説明会を開催して住民の合意を図り、最終的に学校再編は準備の整った所から市議会で条例改正し、平成２７年～３０年度で段階的に行うよう予定している。

○　統合校までの通学方法や放課後の対応等をどうするのか。

遠距離通学の児童のために、現在運用している倉吉市遠距離通学費補助金交付要領により、通学距離４㎞以上の児童に対してバス通学費の補助やスクールバスを運行する。また、通学路の安全確保や児童の放課後の対応など様々なことを統合準備委員会で協議していく。

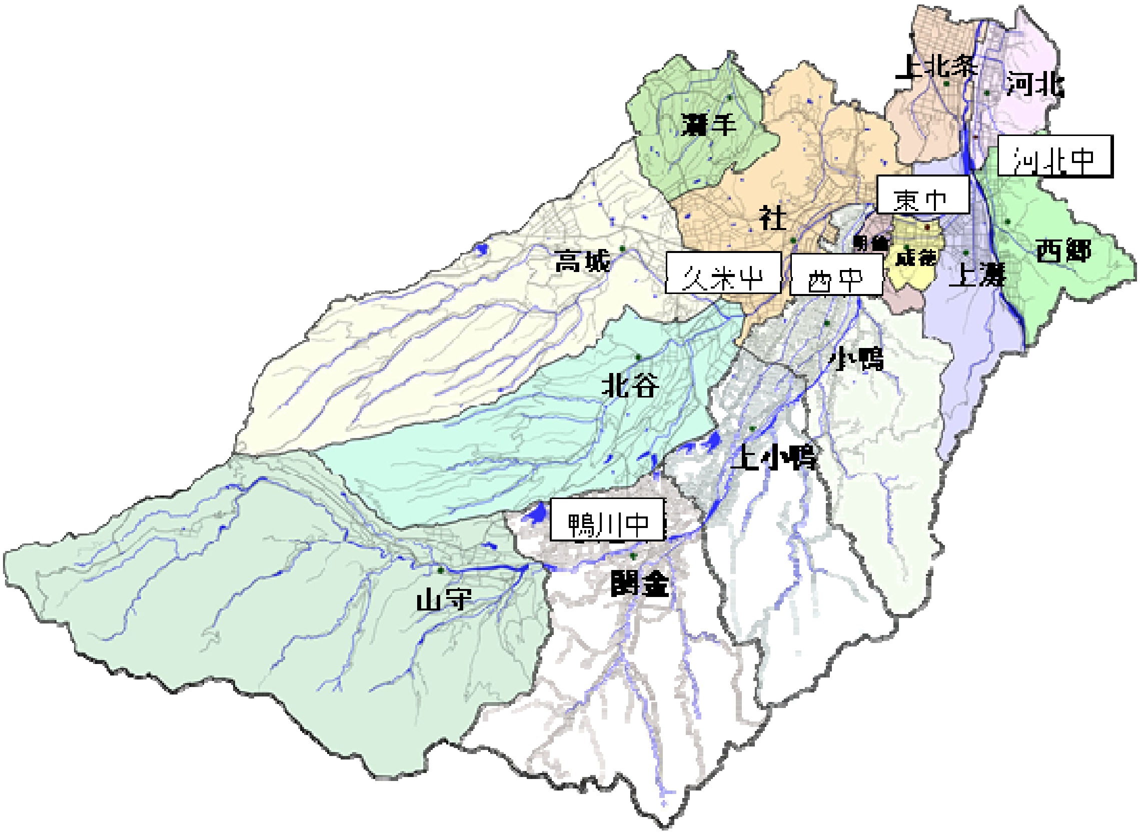
○　統合した跡地をどうするのか。

空き施設の利用については、統合準備委員会で協議をするとともに、市民の意見を聞き、全市的な視野と幅広い視点から十分検討した上で活用を図る。例えば、地区住民の体育施設及び文化活動等の拠点や避難所、或いは、スポーツ団体、文化芸術団体、産業振興、介護福祉等のための施設として活用することも考えられる。

６　再編案

倉吉市教育委員会は再編案を検討していく中で、次の点に課題を絞った。それに対する考えを整理して再編案とし、説明会等で市民の意見を聞き、判断していく。

倉吉市小中学校区地図



<table>
<tr><th>校名</th><th colspan="2">再編案</th><th>最終再編案</th></tr>
<tr><td>西郷小学校</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>河北小学校</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>上北条小学校</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>上灘小学校</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>成徳小学校</td><td rowspan="3">倉吉第一　Ａ</td><td rowspan="2">倉吉第一　Ｂ</td><td></td></tr>
<tr><td>明倫小学校</td><td></td></tr>
<tr><td>灘手小学校</td><td rowspan="2">倉吉第五</td><td></td></tr>
<tr><td>社小学校</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>高城小学校</td><td rowspan="2">倉吉第三</td><td rowspan="2"></td><td></td></tr>
<tr><td>北谷小学校</td><td></td></tr>
<tr><td>小鴨小学校</td><td rowspan="2">倉吉第二</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>上小鴨小学校</td><td rowspan="3">倉吉第四　Ｂ</td><td></td></tr>
<tr><td>関金小学校</td><td rowspan="2">倉吉第四　Ａ</td><td></td></tr>
<tr><td>山守小学校</td><td></td></tr>
</table>

（１）　灘手小学校について

成徳小学校・明倫小学校と統合する場合（倉吉第一A小学校）と社小学校と統合する場合（倉吉第五小学校）と考えられる。成徳小学校・明倫小学校と統合した場合には隣接しないで飛び地となってしまうこととなる。また、社小学校は、現在東・西・久米の３中学校に分散して進学しており、地区としてのまとまりの上から解決すべき問題として取り上げられてきた。

灘手小学校は社小学校と統合する案とする。学校の場所は社小学校とし、灘手地区はスクールバスで通学する。中学校は久米中学校へ進学し、上神、寺谷、大谷茶屋、和田、和田東町、馬場町地区の生徒で徒歩通学が困難な生徒もスクールバスで通学する。こうしたことで、上記の問題の解消を図り、小・中学校の連続性を確保する。

（２）上小鴨小学校について

山守・関金小学校と統合する場合（倉吉第四B小学校）と小鴨小と統合する場合（倉吉第二小学校）とが考えられる。上小鴨地区は、地区を分散するのではなく一体として統合する。

旧関金町との統合に対し、生活上の関係がたいへん深く、隣接しており、同じ西中学校に通学している生徒の多い小鴨小学校と統合することを案とする。学校の場所は、小鴨小学校とし、児童数の増加に合わせて必要な教室を増築する。中学校は西中学校とする。

（３）高城小学校と北谷小学校について

生活上の関係がたいへん深く、同じ久米中学校に通学している隣接する二つの学校を統合（倉吉第三小学校）することを案とする。小中学生が校舎や施設を併用し、教員が小・中学校を兼任することにより、小学校の教科担任制等を進めるなど、小中連携した教育を推進する学校とする。

学校の場所は、久米中学校地内に小学校の必要な教室（校長室・職員室・保健室・事務室・図書室・教室・多目的ホール等）を新設する。

横田部落の児童の就学は、社地区としてのまとまりを考え、従来の社小学校を案とする。

（４）成徳小学校と明倫小学校について

竹田川と小鴨川で区切られた旧倉吉町に属する隣接する２つの小学校を統合（倉吉第一B小学校）する。耐震工事が必要な建物を取り壊し、新たに１２学級規模（特別支援学級を除く）の校舎を建築する。体育館、プールは現在のものを使用する。

学校の場所は、下記の項目を比較し、校地面積・運動場・体育館等の教育環境の良い明倫小学校を案とする。中学校は東中学校とする。

項　　目	明倫小学校に統合	成徳小学校に統合
校地　　　運動場	17,811㎡　　運動場　8,270㎡	12,174㎡　　運動場　4,016㎡
体育館	992㎡　バレーボールコート２面	731㎡　バレーボールコート１面
通学　徒歩　　距離	宮川町２丁目公民館から2.5km	八幡町公民館から2.1km

（５）関金小学校と山守小学校について

旧関金町にある二つの小学校を統合（倉吉第四A小学校）することを案とする。学校の場所は、関金小学校に統合し、中学校は鴨川中学校とする。近隣の鴨川中学校教員が小学校と兼任することにより、小学校の教科担任制等を進めるなど、小中連携した教育を推進する学校とする。

７　計画の推進

（１）平成２４年度末までに、「倉吉市立小・中学校の適正配置の具体案」草案を提示する。
（２）平成２５年４月から、再度、地区別合同（中学校区）で説明会を開催し、住民の合意を図る。
（３）統合校ごとに準備委員会を設置し、校名・校章・校歌、教育方針・内容等統合の諸準備をする。
（４）開校のための施設・設備の整備のため、予算要求・設計・建設に着手する。
（５）学校再編は準備の整った所から市議会で条例改正し、平成２７年～３０年度で段階的に行うよう予定している。

８　開校に向けて

（１）　統合準備委員会の設置

統合となる学校の開校に向けて円滑に取り組めるように準備委員会を設置し協議していく。準備委員会は、現在設置されている各学校の地域学校委員会を基に必要な委員を加えて組織する。

・○○小学校統合準備委員会設置要項の作成
・校名、校章、校歌等の決定
・学校教育目標、教育課程等の決定
・通学方法、通学路等の決定
・統合に向けた交流活動等の推進
・統合後の学校支援組織の在り方の検討
・放課後・休日・長期休業日等の児童の対応の意見具申
・学校の施設・跡地等の活用の意見具申
・その他必要な事項

（２）　移転作業計画の策定

９　学校が移転する地区での取り組み

学校と地域が結びついた活動をしていくことは重要なことである。地域学校委員会の取り組みを通して学校と地域との結びつきが強まってきたが、学校の統合によって、その取り組みが衰退しないように、また「地域が廃れる」という不安の解消のための手だてが必要である。地域が主体となって地域づくりを行えるよう行政は支援をしていく。

（１）地域の中で生きる子どもをめざして

地区が、小学校が地域の中で果たしてきた地域づくりの役割を担っていくための組織、事業等を考えていく必要がある。地区公民館を軸として、青少年育成協議会、PTA、地区振興協議会等関係する団体とともに、地域の中で生きる後継者を育成していくための具体的なプログラムを作成し、実践的な活動を通して地域の中で生きる子どもを育成していく。

（２）　空き施設の利用について

現在利用している学校の施設で、適正配置後に空き施設となる校舎がある。その後の活用について次の方法を考えることができる。市民の意見を聞き、市全体で十分検討した上で進めることが必要。

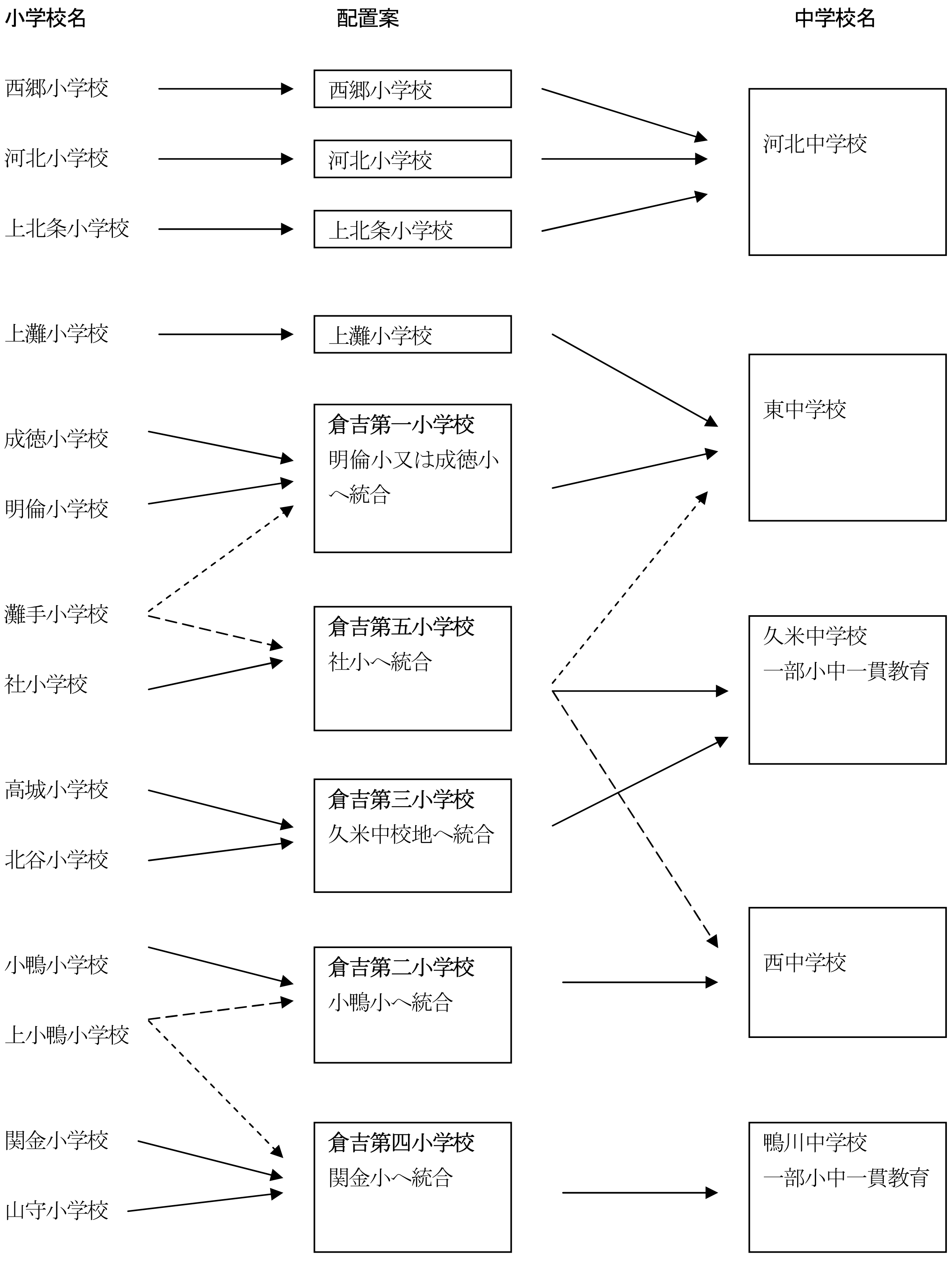
①　教育施設として転用　　地区公民館、体験型社会教育施設セカンドスクール
②　民間・団体利用　　　　スポーツ団体、文化芸術団体、産業振興、介護福祉等のための施設
③　解体撤去

資料１

倉吉市立小・中学校の適正配置等について

倉吉市教育委員会

具体的例



資料２

倉吉市　小・中学校通学区域（案）

再編案	小学校	通　　学　　区　　域	中学校	再編案
西郷小学校	西郷小学校	山根、伊木、八屋、下余戸、上余戸、栗尾、大原、広栄町、虹ヶ丘町	河北中学校	河北中学校
河北小学校	河北小学校	清谷、清谷町１丁目、清谷町２丁目、福庭町１丁目、福庭町２丁目、福庭、海田東町、海田南町、海田西町１丁目、海田西町２丁目、河北町、大平町、天神町、上井、上井町１丁目、上井町２丁目	河北中学校	
上北条小学校	上北条小学校	穴窪、大塚、中江、新田、井手畑、下古川、古川沢、小田	河北中学校	
上灘小学校	上灘小学校	下田中町、円谷町、米田町、米田町２丁目、新陽町、駄経寺町、駄経寺町２丁目、上灘町、昭和町１丁目、昭和町２丁目、南昭和町、東昭和町、東巌城町、幸町、見日町、巌城	東中学校	東中学校
倉吉第一小学校	成徳小学校	宮川町、宮川町２丁目、住吉町	東中学校	
		湊町、東町、葵町、仲ノ町、荒神町、堺町１丁目、堺町２丁目、堺町３丁目、研屋町、明治町、明治町２丁目、大正町、大正町２丁目、新町１丁目、新町２丁目、新町３丁目、魚町、東仲町、西仲町、西町		
	明倫小学校	福吉町、福吉町２丁目、旭田町、金森町、瀬崎町、東岩倉町、西岩倉町、越中町、越殿町、広瀬町、鍛冶町１丁目、鍛冶町２丁目、河原町、余戸谷町、八幡町、みどり町	西中学校	東中学校
倉吉第一or第五	灘手小学校	北面、穴沢、別所、鋤、谷、津原、尾原	東中学校	東or 久米中
(倉吉第五小学校)社小学校	社小学校	上神、寺谷、大谷茶屋、和田、和田東町、馬場町	東中学校	東or 久米中
		秋喜、秋喜西町、西福守町	西中学校	西中学校
		大谷、不入岡、国府、国分寺、福光、黒見、	久米中学校	久米中学校
		横田		
倉吉第三小学校	高城小学校	下米積、上米積、下福田、上福田、今在家、服部、桜、河来見、福積、岡、大立、上大立、般若、椋波、立見	久米中学校	
	北谷小学校	三江、福本、尾田、志津、福富、沢谷、杉野、怜谷、中野、長谷、森、大河内	久米中学校	
倉吉第二小学校	小鴨小学校	鴨川町、福守町	西中学校	西中学校
		富海、下大江、東鴨、大宮、岩倉、菅原、小鴨、中河原、生田、丸山町、西倉吉町、北野、長坂新町、長坂町、東鴨新町		
倉吉第二or第四	上小鴨小学校	蔵内、上古川、石塚、広瀬	西中学校	西or 鴨川中
		耳、鴨河内、福山の希望する者（鴨川中学校）	鴨川中学校	西or 鴨川中
倉吉第四小学校	関金小学校	関金町泰久寺、関金町松河原、関金町大鳥居、関金町安歩、関金町関金宿、関金町郡家、関金町山口	鴨川中学校	鴨川中学校
	山守小学校	関金町野添、関金町米富、関金町小泉、関金町福原、関金町明高、関金町堀、関金町今西	鴨川中学校	

資料３

倉吉市小学校児童生徒数推移・推計

H24.5.1現在

	H	上北条小	河北小	西郷小	上灘小	成徳小	灘手小	明倫小	上小鴨小	小鴨小	社小	北谷小	高城小	関金小	山守小	小学校合計	備考	市出生数
小学校	10年度	196	443	303	426	211	95	275	123	396	384	131	194	211	78	3466		486
	20年度	140	378	306	333	183	46	218	82	360	361	58	109	148	50	2772	H20.5.1現在	455
	21年度	137	378	293	335	165	46	193	83	370	365	59	97	150	48	2719	H21.5.1現在	414
	22年度	132	385	289	308	147	48	177	82	371	359	51	89	148	50	2636	H22.5.1現在	397
	23年度	146	403	267	287	147	46	166	87	387	341	53	86	137	41	2594	H23.5.1現在	448
	24年度	142	387	263	284	149	49	154	91	376	323	50	88	138	41	2535	H24.5.1現在	427
	25年度	143	407	260	288	153	47	148	100	381	303	48	78	136	40	2532	推計児童数	413
	26年度	150	401	282	302	146	43	140	97	383	297	52	83	127	33	2536	推計児童数	407
	27年度	156	419	288	308	143	39	136	89	396	293	51	90	122	30	2560	推計児童数	400
	28年度	165	413	295	311	140	39	128	92	393	281	53	96	117	27	2550	推計児童数	397
	29年度	160	404	291	318	127	34	123	86	407	272	55	87	107	29	2500	推計児童数	386
	30年度	162	418	289	338	122	30	125	85	434	270	57	88	99	27	2544	推計児童数	367
	24年割合	5.6%	15.3%	10.4%	11.2%	5.9%	1.9%	6.1%	3.6%	14.8%	12.7%	2.0%	3.5%	5.4%	1.6%	100.0%	H24年校区別割合	
	30,年割合	6.4%	16.4%	11.4%	13.3%	4.8%	1.2%	4.9%	3.3%	17.1%	10.6%	2.2%	3.5%	3.9%	1.1%	100.0%	H30年校区別割合	
H20～30年	減少率	1.16	1.11	0.94	1.02	0.67	0.65	0.57	1.04	1.21	0.75	0.98	0.81	0.67	0.54	0.92	20年度／30年度	
	40年度	187	462	273	343	81	20	72	88	523	202	56	71	66	15	2335	30年度×減少率	
	50年度	217	511	258	348	54	13	41	91	631	151	55	57	44	8	2143	40年度×減少率	
H10～20年	減少率	0.83	0.94	0.95	0.79	0.58	0.32	0.45	0.69	1.10	0.70	0.44	0.45	0.47	0.35	0.73	10年度／30年度	
	40年度	134	394	276	268	71	9	57	59	476	190	25	40	46	9	1867	30年度×減少率	
	50年度	111	372	263	213	41	3	26	41	521	133	11	18	22	3	1371	40年度×減少率	
修正	減少率	0.99	1.02	0.94	0.90	0.62	0.48	0.51	0.86	1.15	0.72	0.66	0.63	0.57	0.44	0.81	10年間と20年間の中間値	
	40年度	131	339	234	274	99	24	101	69	352	219	46	71	80	22	2061	30推計数×校区別割合	
	50年度	106	274	190	222	80	20	82	56	285	177	37	58	65	18	1669	40年度×減少率	

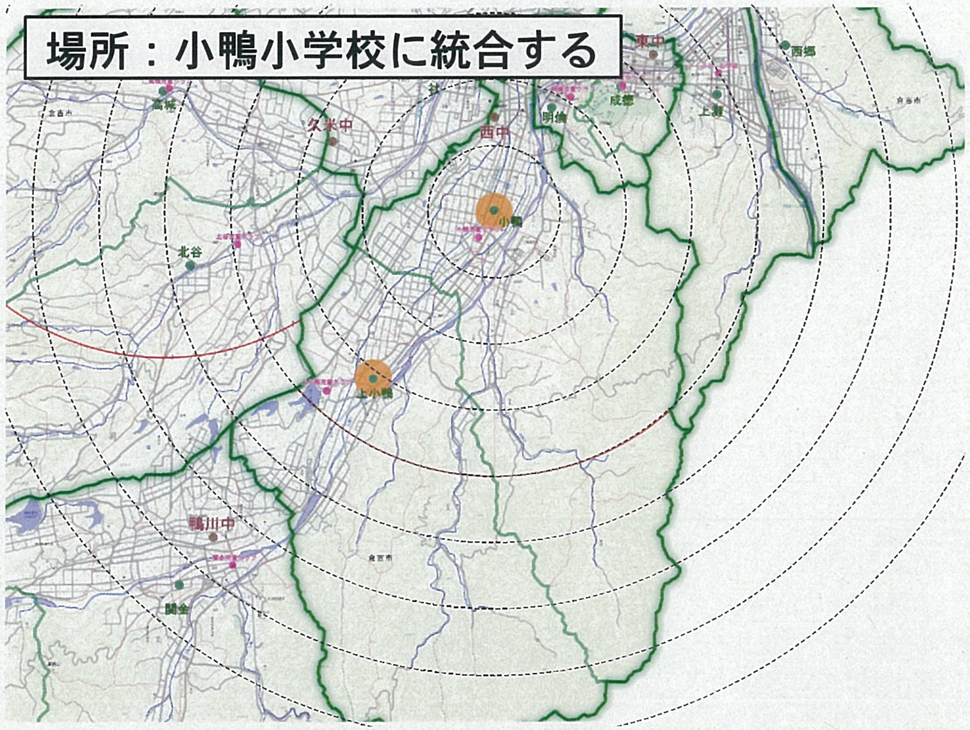
※1　平成40年度、平成50年度については過去の減少率をもとに市教委で試算したもの（小学校合計は各学校児童数を合計したもの。）
修正の数値は、過去10年と過去20年の減少率の中間値に30年度の推計児童数を乗じて得た合計数に、校区別割合を乗じた推計数

※2　［参考］第11次倉吉市総合計画では、平成22年度から平成32年度までの年少者（0～14歳）人口の減少見込率は19.7％である。
市出生数は、平成14年～23年までの平均出生数442人を基に、年少者減少率19．7％を乗じて得た推計数

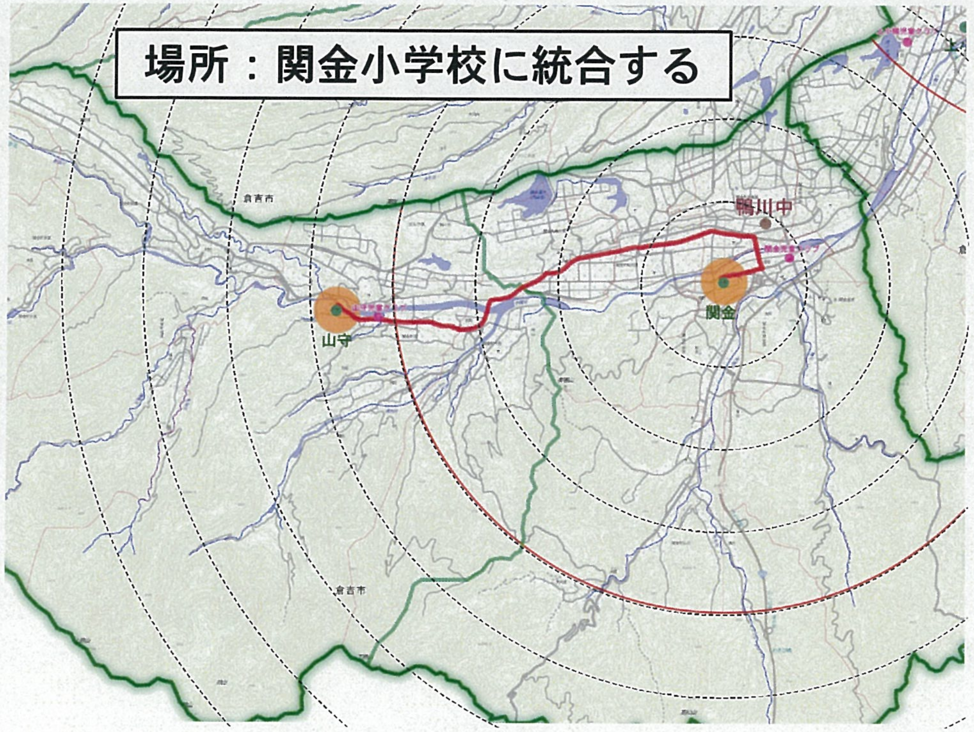
倉吉市小・中学校の適正配置の具体案【草案】再編対象小学校区別説明会

平成25年6月4日～8月21日

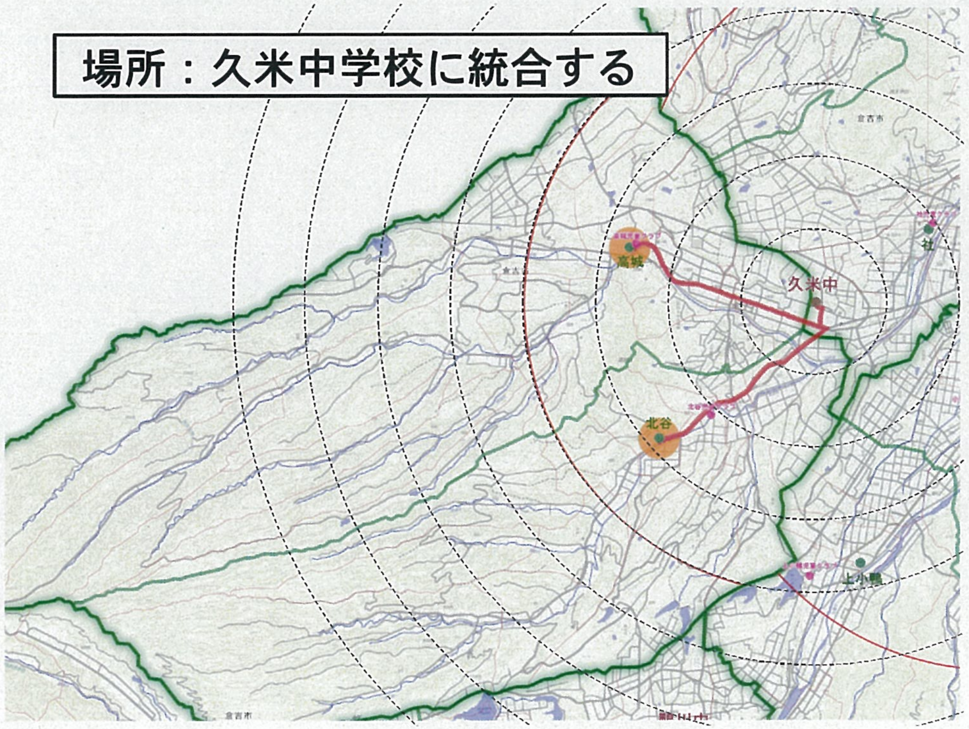
場所：小鴨小学校に統合する

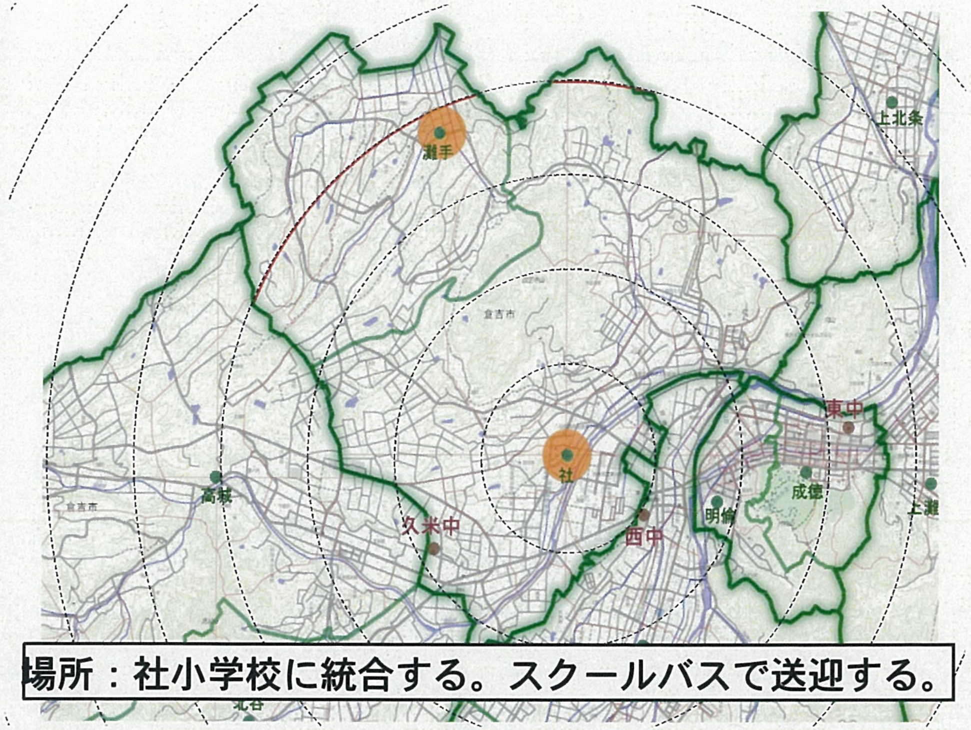


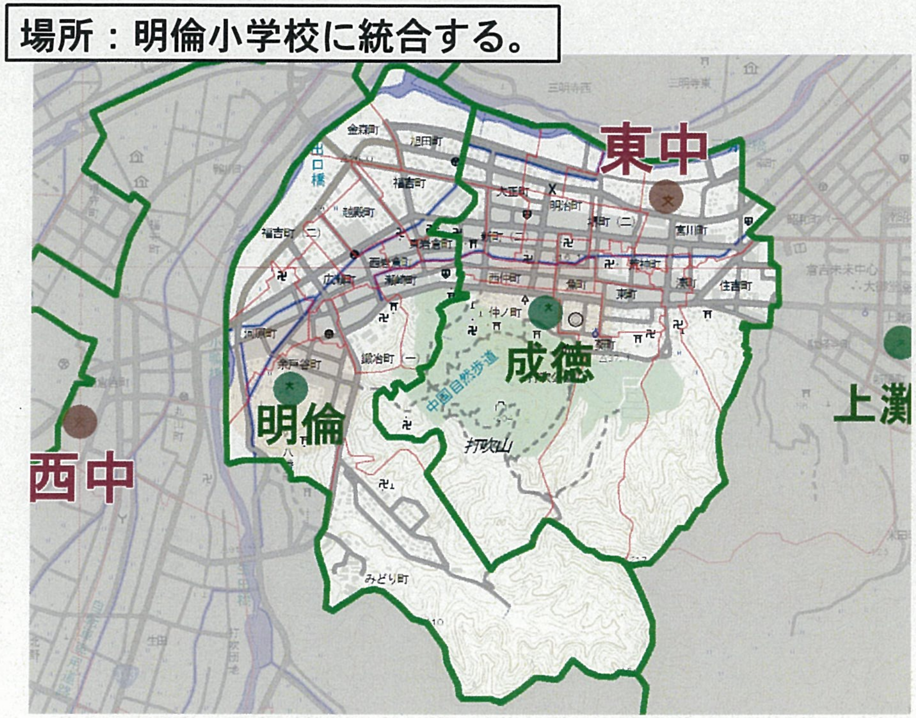
場所：関金小学校に統合する



場所：久米中学校に統合する







財政

必要経費

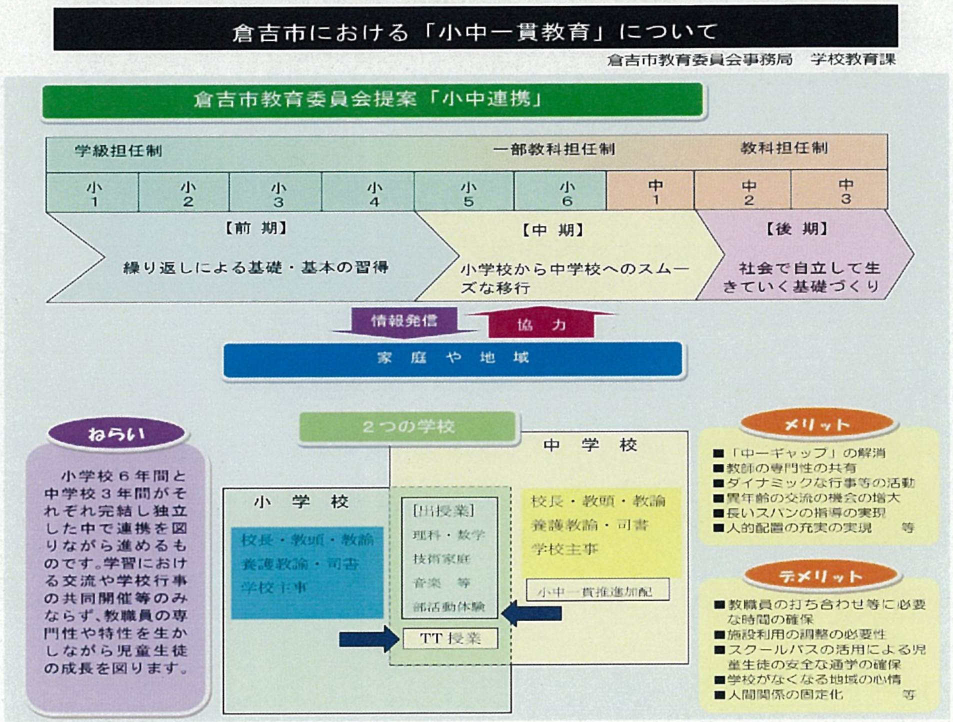
- スクールバス運行費用、倉吉市遠距離通学費補助金
- 小中連携推進加配教員（市費）
- 学校運営経費（統合による増加）

経費節減

- 市費職員（学校主事、司書）
- 市費教員（複式解消加配協力金）
- 学校運営経費

（地方交付税）

- 学校数・学級数分の歳入減



地域の中で生きる子どもの育成
○○地区後継者育成事業

「地域の子どもは地域が育てる」 ○○地区後継者育成事業 例

教育目標		○○地域の歴史・文化財・自然等について体験を通して学ぶとともに、地域の様々な人々との地域交流・世代間交流で地域愛を育み、後継者の育成につなげる。				
月日	時間	項目	内容	場所	指導者	備考
4		入塾式	塾のガイダンス、 職員びらき、スタッフ紹介	地区公民館	青少協 公民館	
5		グランドゴルフ	年代を超えて運動に親しむ。	小学校庭	GG同好会	
6		文化財見学	長谷寺の絵馬を調べよう。	長谷寺	住職	
7		川の探検	川原の動植物を調べよう。	川原	地域指導者	
8		夏期学習	夏休みの課題を片づけよう。	地区公民館	高校生	
9		郷土料理	炊き込みご飯を作ろう。	地区公民館	食生活改善推進員	
10		地域の産業	地域の産業を調べよう。	企業	家教支援企業	
11		文化に親しむ	文化祭に出品しよう。	地区公民館	地域指導者	
12		郷土の行事	門松・注連飾りづくり	地区公民館	地域指導者	
1		お正月遊び	百人一首、カルタ	地区公民館	青少協	
2		郷土の偉人伝	中井太一郎について知ろう。		博物館職員	
3		卒塾式	修了証書授与 「一年間を振り返って」作文	地区公民館	青少協 公民館	

※ スポーツ少年団活動の取扱い

今後の進め方

（1） 統合準備委員会の設置

準備委員会は、現在設置されている各学校の地域学校委員会を基に必要な委員を加えて組織する。

学校教育部会

- 学校教育目標、教育課程等の決定
- 通学方法、通学路等の決定
- 統合に向けた交流活動等の推進

総務部会

- 校名、校章、校歌等の決定
- 統合後の学校支援組織の在り方の検討
- 学校の施設・跡地等の活用の意見具申
- その他必要な事項

（2） 移転作業計画の策定

統合予定小学校の児童数・学級数（推定）

普通学級+特別支援学級　　2013.5.1 現在

西　暦	1998	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2028	2038
小学校名	平成10年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年	平成40年	平成50年
成徳小学校	8	8	6+2	6+2	6+1	6+1	6+1	6+1	6+1		
児童数	211	149	145	139	133	130	122	112	101	99	80
入学者数		26	24	18	15	22	16	17	13		
明倫小学校	13	8	6+4	6+3	6+3	6+3	6+3	6+2	6+2		
児童数	275	154	150	139	137	129	123	126	113	101	82
入学者数		19	23	19	23	18	18	25	10		
（倉吉第一）小学校学級数		12	12+4	12+4	12+4	12+4	12+4	12+3	10+3		
児童数	486	303	295	278	270	259	245	238	214	200	162
入学者数		45	47	37	38	40	34	42	23		
小鴨小学校	14	14	14+2	14+2	15+2	15+2	16+2	17+2	17+2		
児童数	396	376	388	393	410	406	414	442	426	352	285
入学者数		52	80	81	73	57	69	82	64		
上小鴨小学校	8	7	6+1	6+1	6+1	6+1	6+1	6+1	6+1		
児童数	123	91	98	95	88	92	85	83	69	69	56
入学者数		15	21	17	10	15	7	13	7		
（倉吉第二）小学校学級数		17	18+2	18+2	18+2	17+2	17+2	19+2	19+2		
児童数	519	467	486	488	498	498	499	525	495	421	341
入学者数		67	101	98	83	72	76	95	71		
社 横田地区											
（児童数）		18	18	19	20	21	19	24	23		
高城小学校	7	6	6+2	6+2	6+2	6+2	6+1	6+1	6+1		
児童数	194	88	75	79	86	87	80	80	86	71	58
入学者数		14	10	16	17	11	12	14	16		
北谷小学校	7	4	5+1	5+1	5+1	6+1	5+1	5+1	5+1		
児童数	131	50	47	52	51	51	53	55	57	46	37
入学者数		11	7	13	8	6	9	12	9		
（倉吉第三）小学校学級数	325	6	6+2	6+2	6+2	6+2	6+2	6+2	6+2		
児童数		138	122	131	137	138	133	135	143	117	95
入学者数		25	17	29	25	17	21	26	25		
関金小学校	8	8	6+2	6+2	6+2	6+2	6+2	6+1	6+1		
児童数	211	138	136	123	118	113	101	96	93	80	65
入学者数		17	16	17	22	17	9	15	13		
山守小学校	7	5	4	4	4	4	4	4	4		
児童数	78	41	39	33	30	28	31	29	27	22	18
入学者数		8	7	3	2	5	6	6	5		
（倉吉第四）小学校学級		6	7+2	6+2	6+2	6+2	6+2	6+1	6+1		
児童数	289	179	175	156	148	141	132	125	120	102	83
入学者数		25	23	20	24	22	15	21	18		
灘手小学校	6	5	6	5	5	4	4	4	4		
児童数	95	49	50	45	39	39	34	30	31	24	20
入学者数		8	5	4	4	10	3	4	6		
社小学校	14	15	12+3	12+3	12+2	12+2	12+2	12+2	12+2		
児童数	384	323	310	303	300	292	285	281	278	219	177
入学者数		48	42	45	54	52	44	44	39		
（倉吉第五）小学校学級数		12	12+3	12+3	12+2	13+2	13+2	12+2	12+2		
児童数	479	372	360	348	339	331	319	311	309	243	197
入学者数		56	47	49	58	62	47	48	45		

倉吉市立小・中学校の適正配置の具体案【草案】中学校区別説明会の概要

倉吉市教育委員会学校教育課

１　説明会の実施状況

月	日（曜日）	時　　間	対象校区及び場所	参加人数
４月	２３日（木）	午後７時３０分～９時	鴨川中（関金総合文化センター）	３５名
５月	１０日（金）	午後７時３０分～９時	久米中(武道館)	７６名
	１４日（水）	午後７時３０分～９時	西中（武道館）	５６名
	２１日（木）	午後７時３０分～９時	東中(３階多目的ホール)	６２名
	２７日（月）	午後７時３０分～９時	河北中(柔剣道場)	２１名

【合計　２５０名】

２　説明会の構成

（1）教育長あいさつ

（2）「倉吉市立小・中学校の適正配置の具体案【草案】」の説明（事務局次長）

（3）質疑・意見交換

３　質疑・意見交換の概要　　［・：質問・意見　→：教育委員会回答］

【統合について】

・適正配置については、この具体案がベストだと思う。

・練りに練られた案だと思う。早くこの案で進めてほしい。

・将来地域に帰ってくる子どもたちを育てたいと考えている。まず、教育とは、また、子どもたちのためにということを第一に考えてほしい。納得した状態で統合を進めてほしい。

→子どもたちのためにということを考えてきた。お互いが切磋琢磨しあい、伸びていくことを一番良い教育環境と考えてきた。また、「子どもが不安にならないように」ということへの配慮もしていく。統合に向けて交流の場を設定したり、統合後に子どもたちをフォローしたりする人員の配置も考えている。

・この案で進んでいくことになるのであろうという予想はしていた。教育長の話から「対等合併」といった言葉を聞いて、山守の保護者は安心したのではないか。

・灘手小学校区で賛成という意見はない。もう少し対話をしてほしい。

・子どものためと説明があるが、子どもたちにとって、そこにある灘手小に通うことが幸せであるのか、２０人にこだわってよその学校に通うことが幸せなのかを考えてほしい。

→スクールバス等で安全の確保等配慮していきたい。

・統合について、メリット・デメリットについて検討し合い落としどころを検討していくことが必要ではないか。

→経緯として、児童数の減少があり、複式解消加配等を活用しているといった現状がある。そうした課題への根本的な解決策の一つとしての統合でもある。

・２７年度から３０年度にかけて再編を実現するのは無理ではないか。もう少したくさん機会を設定し、ディスカッション方式で検討していくといったことは計画していないか。

→小学校区、中学校区以外にも、灘手地区の方々から呼ばれて説明し討論を重ねる機会を作ってきたという経過がある。

・統合前のふたつの小学校が一緒になる前に抵抗がないよう配慮してほしい。

→統合前に、学習や活動を一緒に行うなど、交流の機会を意図的に設け配慮したい。統合後に教員を多く配置して、心を配ることができるようにしていこうと考えている。

・（教育委員）再編について、地域によって関心に温度差があると感じる。倉吉市全体のこととして考えていきたい。河北中学校区は、冷静に判断できる地域の一つであると思う。

全市の話として、そういった意味での意見をどんどん聞かせてほしいし、皆に伝えてほしい。よろしくお願いしたい。

・統合準備委員会の構成メンバーはどのような人たちなのか。

→地域学校委員が中心となって、その他必要だと思われるメンバーを加えて構成していくことになる。ＰＴＡ会長、地域コーディネーター等、普段から学校に関わりを持っている方々がなられるケースが多い。

・統合準備委員会は、どういったことをもって合意形成が得られたと判断し、誰がゴーサインを出されるのか。

→どのタイミングでゴーサインを出すのかということはとても難しい問題である。学校ができるためには、条例改正をする必要がある。条例改正するためには学校名が決まっていなければならない。そのためには、準備委員会を立ち上げておかなければならない。教育課程や教育目標をすりあわせることを考えれば、１年から１年半は必要だろう。消費税増税等も考えるとあまり先延ばしもしていられない。２７年度から３０年度というのは、あくまで最短である。

・教育委員会が最終案を提案しなければ準備委員会が立ち上げられないのではないか。

→どこかのラインで合意形成が得られたと判断できればスタートを切れると考えている。

・「賛成は過半数」という解釈は、妥当なのか。灘手小や成徳小の関係者からの意見を聞く限り、実感としてとらえられない。全市民に一度アンケートをとってみるといった考えはないか。

→「過半数」というアンケート結果の解釈は、説明会後のものである。全市民にアンケートということについては、説明なしでアンケートをとることが果たして妥当といえるだろうか。そうした市民の声は、議員が代弁するはずである。

・久米中学校には、部活動の種類が少なく選択肢も少ない。そのような子のためにも早く統合をしてほしい。

・「平成２７年～３０年度で段階的に行う」とあるが、住民の理解を得られた所から統合してほしい。

・中学校についても併せて考えていく必要はないか。

→中学校の統廃合については、現時点は考えていない。財政的なものは、ある程度詰めた段階でないと具体的に示すことができない部分もある。

【統合校について】

・限られた予算を効率良く使うことも大切だが、小学校教育の充実を実現することを大切にしてほしい。

・校舎の増築は考えているか。体育館、校庭が狭くなってほしくない。

・統合自体は時代の流れなのでしょうがない。しかし、敷地だけの問題ではないと思う。陸上競技場があったり、公園があったりすることを考えると、明倫小学校がベストだとは思えない。良い教育環境の考え方を聞かせてほしい。

→成徳小学校のまわりにすばらしい教育環境があることは承知している。しかし、明倫小学校にも、森があったり、地域の方達が入って協力してくださったりといった点も、良い教育環境であると考えている。

・「適正規模２０人」という点が、この度の再編の大きなポイントとなっていると思う。今回の説明会で様々な意見が出たが、再編のデメリットを越える「２０人という適正規模のメリット」の説明が必要であると感じる。学校教育審議会ではどのような議論がなされたか知ることはできないか。

→議事録は、ホームページに掲載している。

・保護者の送迎の負担やクラブ活動に支障がでないようにするための、通学補助やスクールバスの運行ついても検討していく必要がある。

→スクールバスや通学補助等については、検討課題としたい。

・小学校が地域からなくなれば、これまで以上に学校の様子が保護者や地域に伝わるための便り等、情報の発信を充実させてほしい。

・統合準備委員会で話を詰めていくことになるが、小学校だけでなく中学校の先生にも入ってもらい、部活動の問題解消も含めて考えていけるようにしてほしい。

【人口について】

・小鴨校区に人口増大がみられるがいつまで続くかというふうに、人口推計は難しい。シミ

ュレーションを周到に行う必要がある。
・２０名が適正規模ということがあったが、山守と関金が統合しても、この数字はすぐに割ってくると思う。この条件がすぐに崩れることを考えれば、最初から上小鴨小も合併してしまっても良いのではないか。
・小規模校のデメリットが取り沙汰にされることが多いような気がする。道路もできることであるし、人口については長いスパンで考えてほしい。
・学校がなくなると地域はさみしくなるばかりである。
→学校がなくなっても地域の子どもたちである。ゲートボールを高齢者と一緒にしたり、食生活改善委員さんとたけのこご飯をつくって一人暮らしの高齢者に届けたりしている地域もある。地域支援ボランティアの数をみても増える傾向である。倉吉は地域の力がある。知恵をしぼって考えていきたいところである。
→地域の子どもたちは地域で育てるといった考え方や取り組みを、応援していきたい。
・農村体験ツアーの民泊受け入れ経験者だが、ツアーの目的としては、修学旅行を誘致したいということもある。実際にはなかなか難しいのが現実ではあるが、民泊者数は着実に増えている。
→歴史ある学校が多数ある倉吉市で、長い歴史に幕を引くという話をするのは辛い作業でもある。２７年度から３０年度といった数字は最短でという意味がある。そういった中で、みなさんの知恵をかりながら今後も考えていきたい。

【小中一貫教育について】
・小中一貫校等を考えながらの検討も加えてほしい。
・小中一貫校となった場合、学力面・体力面での成果は実際にどれくらいあるのか。
・小中一貫教育が良いことであるということだが、忙しいといわれる教師にそのような余裕が本当にあるのか。
・小中一貫教育のメリット、また、その教育のビジョンについて知りたい。また、そういった点を保護者にもっと知らせてほしい。
・今回の統合は小中一貫校という意味なのか。
→倉吉市が鴨川中学校区、久米中学校区で考えているのは「小中一貫校」ではなく、「小中一貫教育」といった発想である。あくまでも別の学校である。効果や専門性の観点から、一部教科担任制を取り入れることによって成果をねらっている。小学校は小学校、中学校は中学校として、小中一貫教育実現への試みでもある。

【財政面について】
・限られた財政の中で、何をすれば存続できるのかということも考えてほしい。
・増築、改築という話が出ているが、今の財政で本当に実現するのか疑問。根拠あるデータを作ってほしい。
・スムーズに進んだ場合とそうでない場合とでは、財政上の違いがどれくらい出るのか。一つの例でも概算を教えてほしい。
→耐震化については、学校によって異なるので一校あたりいくらといった数字は出しにくい。耐震化と老朽改修とをあわせて行っている関係上、さらに違いが出てくる。教職員については、県費負担の職員が多いが、市費で雇っている職員もいる。各学校にだいたい３人くらい入っているので、ざっくり３人分で５００万円くらい違うと考える。運営費については一校につき２０００万円くらいの額が出てくる。はっきりした数字を出すにはスクールバスの運用等もあるので、一つ一つについて検討する必要はある。
・今回の説明会で、財政的な部分についての説明があったことは良かった。
・北谷小では、耐震工事をしているところである。統合となると無駄遣いではないか。
→北谷小学校は統合後の施設活用ということを考えると無駄にはならない。将来的には無駄にならないように活用していく必要がある。

【その他】
・小学校がなくなれば地区公民館もなくなるだろうと思っている。そのことも考えてほしい。
→そうであるとは考えていない。また、そういった議論はこれから必要になるかもしれない。
→学校教育審議会の中で、これまでも議論をしている。さまざまな条件をふまえ、倉吉の教育をどうするべきなのかということを考えてきた。どうすれば灘手小は残せるのかという

気持ちはわかるが、なかなか難しい。灘手のみなさんが灘手の子どもたちを大切に思っている姿を見るにつけ、灘手の子どもたちを地域で育てていく力を持った地域であると思う。

・再編対象小学校区での説明会が予定されているが、河北小学校は対象ではない。そこでは、より具体的な説明がなされるのか。

→週１回のペースで、説明会をしてきている。記録をまとめる作業等なかなかまわらないので対象外の小学校区では予定していない。どこまで出せるかはわからないが、数字も出して説明していくことになると思う。

→住民投票してみてはどうかという意見をいただいたこともあった。悩むところではあるが、説明をさせていただいた上での意見を伺う、アンケートをとらせてもらう等の必要があると考える。市長も、学校再編については、ある程度の方向性を持って進めようとしている。

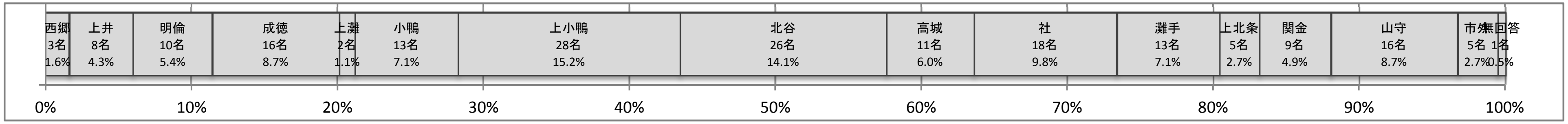
・（教育委員）「なぜ２０人が適正規模なのか」という話が出るが、自分を振り返ってみると、たくさんの人たちと出会って、自分の能力を知ることもでき、社会に生かせる自分の特性に気づくことが、ある程度の規模があるからこそできたと思う。友だちの優れた点を見ることによって刺激を受け、努力もすることができると思う。ある程度の人数は必要なのだと思う。

　財政的なことを考えると、国の借金は昨年度末の段階で１０９０兆円ある。この借金を払うことができるかというと、ここ２０年を考えるとそれは無理である。この借金を将来的に払うのは、今の子どもたちであると考えられる。国の財政がしぼられてくることは容易に推察でき、さらにそれは、県、市へと影響を与えるだろう。潤沢な教育予算は今後期待することはできないかもしれない。みなさんのご理解をいただき、早い段階で準備委員会ができたら良いと思う。

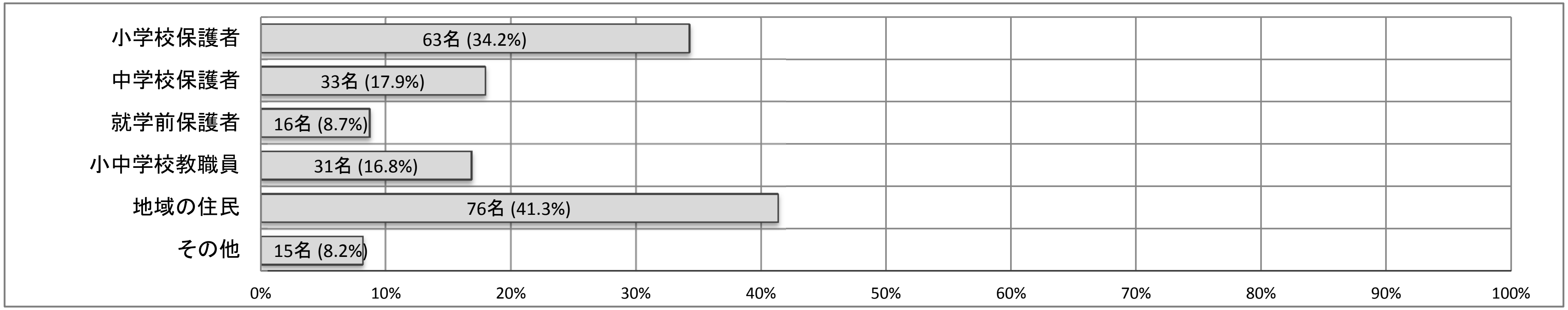
・（教育委員）地域は大切である。さらに倉吉市を、鳥取県を、日本を、世界をというふうに視野を広げていく必要がある。この再編案は、正しいものであるし、良い方向へ進んでいると思っている。みなさんの理解を得られるよう説明会を重ねていきたい。

中学校区別説明会（アンケート回収：184名）

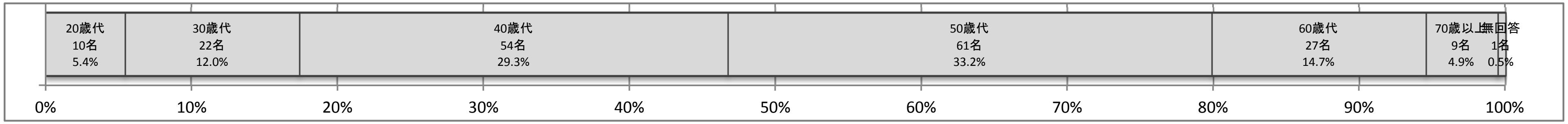
問１　どの地区から参加されましたか。



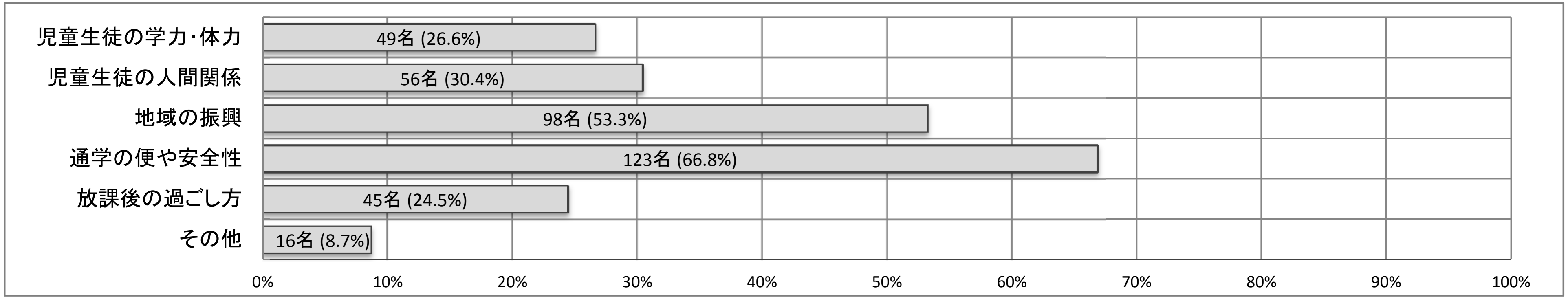
問２　どのような立場ですか。（複数回答）



問３　どの年齢層に該当しますか。



問４　再編にあたって配慮しなければならないことはどんなことだと思いますか。（複数回答）



倉吉市立小・中学校の適正配置の具体案【草案】対象小学校校区別説明会の概要

倉吉市教育委員会学校教育課

１　説明会の実施状況

月	日（曜日）	時　　間	対象校区及び場所	参加人数
６月	４日（火）	午後７時３０分～９時	関金小(ランチルーム)	１１名
	２７日（木）	午後７時３０分～９時	山守小(多目的室)	３９名
７月	１日（月）	午後７時３０分～９時	北谷小(ぬのこ会館)	２５名
	９日（火）	午後７時３０分～９時	高城小(体育館)	３５名
	１９日（金）	午後７時３０分～９時	小鴨小(多目的ホール)	２１名
	２４日（水）	午後７時３０分～９時	上小鴨小(体育館)	１９３名
	３０日（火）	午後７時３０分～９時	灘手小(灘手公民館)	９３名
８月	７日（水）	午後７時３０分～９時	社小(社公民館)	３７名
	２０日（火）	午後７時３０分～９時	明倫小(第２音楽室)	５０名
	２１日（水）	午後７時３０分～９時	成徳小(体育館)	４８名

【合計　５５２名】

２　説明会の構成

（1）教育長あいさつ

（2）「倉吉市立小・中学校の適正配置の具体案【草案】」の説明（事務局次長）

（3）質疑・意見交換

３　質疑・意見の概要　［・　質問・意見　→　教育委員会回答　《　》　小学校区］

【統合について】

・２０人以上といった数字は、全国的な基準として出てきていると思うが、倉吉市としても、地域の特性と照らし合わせた上で、適正と考えているか。

→学校教育審議会でもその点は議論になった。国立教育政策研究所によると、概ね２１～２５人といった規模が適正であると答えた教員が最も多い。もちろん教科によっても違いはある。また、文科省の平成２２年実施の国民アンケートの結果によると、望ましい学級規模として２６～３０人と意見が約６割であった。そうした様々な調査を参考にして、教員や保護者の立場等の方々による議論を重ねた。その結果として２０人以上が適正という結論に達した。

　また、現実に倉吉市の学校は、全て３５人以下である。県の補助金と市の協力金とを合わせて財源を出して実現している。しかし、今、私たちが議論しているのは、では、少なければ良いのかということである。「児童数減少にともなって、これまでできた様々な活動ができなくなってきた。」「少ない人数では、切磋琢磨も期待しにくく、もっと大きい集団の中で生活させたい」「可能であれば複数学級による学年がのぞましい」等の意見が、実際でている。倉吉市の状況は、平均がおよそ２５人くらいである。

・さまざまな子どもたちが増え、多くの学校が苦労している。子どもたちの健全な育成を考えるならば、少人数の学校の良さを生かしてほしい。

→少人数のメリットはあるがデメリットもある。適正規模があれば、メリットを生かせる場面で少人数を仕組んでいくことができる。

・今後統合準備委員会では、地域の意見を十分吸い上げることのできる会にするべきである。民生委員さん等ではなく、これからの保護者も委員として入ってもらうような人選が必要である。

→統合準備委員会は、現在の地域学校委員会をもとに、必要な委員さんに入ってもらうこととしている。地域の中で「是非この方を」といった考え方で構成できる。

【統合校について】

・二つの小学校が一つになり、学校がなくなる地域がどうなっていくのかということを考えて議論していきたい。

→統合準備委員会の中で、メンバーの構成員について、どのような方に入ってもらうのかということを考えていくことをとおして地域を考えていくことが、まさに大切なことだと考えている。

・いじめ等、現在でも、学校が子どもたちのことを把握しているとは言えないのに、さらに人数が増えていくことや、職員数も減るのに、本当にメリットはあると言えるのか。

→現実に両校とも子どもたちの人数は減っていくのだから、子どもたちの人数が大きく増えるということはない。現状の教職員の目の届き方に影響があるとは考えていない。また、倉吉の教職員の能力から考えれば、十分対応できるものであると考える。

【人口について】

・保育所、小学校が統合していくという話が出ている中で、地域と小学校との関わりには密なものがあり、簡単には切り離せないと思っている。子ども歌舞伎にしても地域のものとして成り立っている。小学校がなくなっていけば、こうした地域性もなくなってしまうのではないかと心配している。過疎化も加速してくるのではないだろうか。

→地域と学校との距離は確かに遠くなるが、子どもたちが地域にいる限り、子どもたちを支えてやってほしい。また、過疎化が加速するのではという話は確かにあるが、第一に考えているのは、子どもたちのより良い学習環境である。

【小中一貫教育について】

・小中連携は、鴨川中と久米中の２校しか提案がないが、その他の中学校についてはどうか。

《山守小校区》

→この２校は、規模が小さいことから、中学校教諭の兼務が生じている。小中連携によりその点をクリアすることもねらっている。

・中学校と小学校とが併設されるのは、全国的にはよくあるケースなのか。メリットもあればデメリットもあるのではないか。その点を聞きたい。

→鳥取市に湖南学園があるが、これは小中一貫校である。倉吉市が提案しているのは、学校自体は別々で、小中学校が連携をして効果をねらっている「小中連携」である。また、倉吉市内にも、垣根を低くして交流を進めている学校もある。ただし、人員の配置の問題で全ての面での連携を図ることは無理である。現在考えている小中連携は「一部教科担任制」といった考え方である。

・デメリットとして、教職員の負担が大きくなりはしないか。《北谷小校区》

→多忙化は確かにあるかもしれない。打ち合わせの時間の確保等、デメリットであるかもしれない。ただし、教職員の専門性を共有できること、教職員がともに学び合えることや中一ギャップの解消等を考えると大きなメリットがあると考える。

【財政面について】

・名称だけで、金額がわからない。財政面でしかたないのなら考えていこうと思うが、具体的な数字が出てきていないが、いつ公表するのか。

→財政課と検討が必要な部分があるので詰めていきたい。倉吉市の当初予算２６６億のうちおよそ一割が教育費である。教室に天井扇を取り付けたことや上小鴨小の体育館の建設等、一時的な経費は年度によって違いが生じるので出していなかった。平成２３年度を例にとると、１校あたり、およそ２０００万円。はっきりしているのは、複式解消加配について、一人５００万円となる。

【その他】

・放課後児童クラブはどうなるのか。

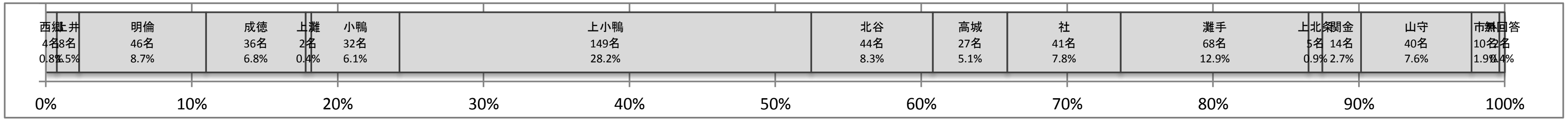
→学校が終わってから家に帰るまでの時間を過ごす場所としての放課後児童クラブについて、子ども家庭課と検討をしている。放課後児童クラブの対象は、平成２７年度くらいから小学校６年生にまで広がる。放課後の子どもたちに、帰った先での居場所、また、帰るまでの居場所を確保していく。

・スクールバスの運行について、方向性を聞かせてほしい。

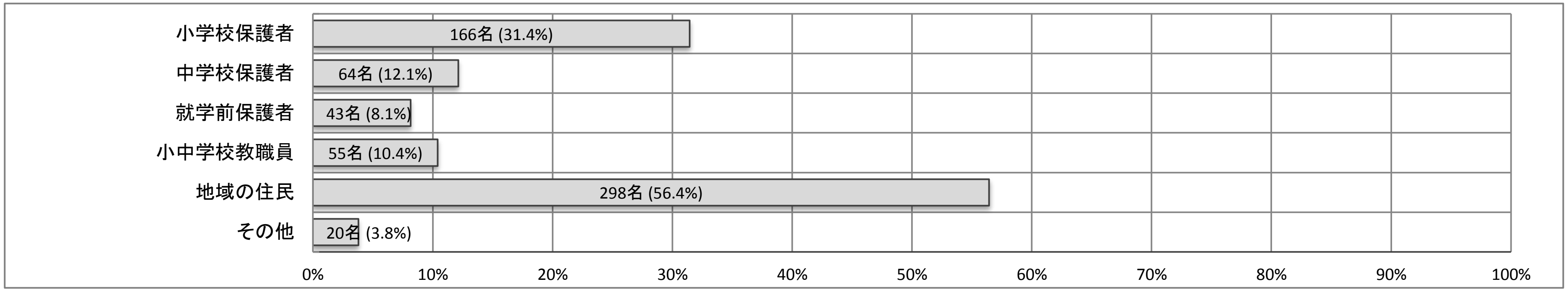
→スクールバスの運行については、統合準備委員会で検討していく必要があると考えている。基本的には、徒歩で通学している子どもたちについては、現在の学校から統合後の学校へといった考え方で考えているが、現時点でバス通学している子どもたちについては、個々に検討が必要となるだろう。

小学校区別説明会（アンケート回収：528名）

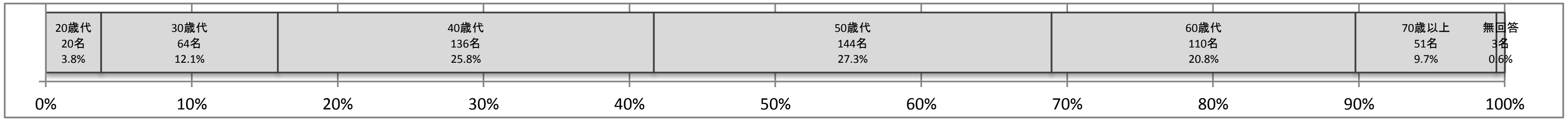
問１　どの地区から参加されましたか。



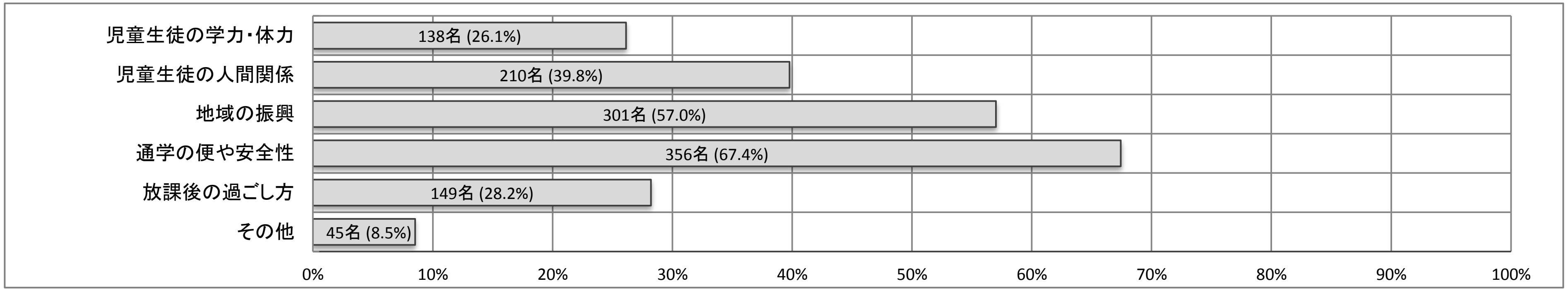
問２　どのような立場ですか。（複数回答）



問３　どの年齢層に該当しますか。



問４　再編にあたって配慮しなければならないことはどんなことだと思いますか。（複数回答）



倉吉市民シンポジウム「倉吉市立小・中学校の適正配置等について」の概要

倉吉市教育委員会

「倉吉市１００年の大計」である「倉吉市立小・中学校の適正配置」について、先進町教育委員会の方、ＰＴＡ代表、地域代表等が、それぞれの立場から倉吉市の学校がどうあるべきかを議論し、適正配置等について市民が考えを深めていくために、倉吉市民シンポジウムを開催しました。

先進事例に学びながら、適正規模についての考え方や地域との関係、通学について等、活発な議論が行われました。

１　日　時　平成２５年１１月１０日（日）午前９時３０分～１１時４０分

２　場　所　倉吉交流プラザ　視聴覚ホール

３　参加者　市民５３人

コーディネーター　山田　修平　鳥取短期大学長

シンポジスト　氏橋　俊司　智頭町教育委員会教育課参事

野村栄二朗　智頭小学校前ＰＴＡ会長

笠原　　治　倉吉市小学校ＰＴＡ連合会長

高橋　義博　倉吉市中学校・養護学校ＰＴＡ連合会長

冨田　充信　倉吉幼稚園保護者

徳吉　雅人　明倫地区公民館長

４　概　要

（１）開会あいさつ　福井伸一郎教育長

（２）説明　池原和彦教育委員会事務局次長

（平成２５年度開催の説明会の概要について資料にそって説明）

（３）講演　「智頭町における学校統合について　－　経緯と現在　－」

講師　智頭町教育委員会教育課参事　氏橋　俊司　氏

（パワーポイントによる講演）

①　智頭町・智頭小学校

■智頭町の人口、高齢化率

■統合前の６小学校の位置及び児童数（年次推移含む）

②　学校統合までの経緯

■「１校統合」決定に至るまでの年次経緯

■統合検討委員会の組織及び各部会の検討事項
■児童への対応（統合前の町内児童合同学習会、児童アンケート）
■統合に関わる広報活動（「事務局だより」）

③ 現状と課題
■統合時の児童数及び職員数と年齢構成
■智頭町教育ビジョン及び学校教育目標
■統合後の児童アンケートの結果より（一部抜粋）
■統合後の教育委員会の対応
■課題の考察（児童、教職員、地域）
■保・小・中の連携（一貫した教育）
■統合後１年半経過した現在の児童の反応（６年生）

④ 今、あらためて考えると
■よりよい「統合」について
・「どんな子どもに育てたいか」というめざす姿の十分な共有
・統合推進の組織づくり
・「誰が・何を・いつまでにするか」を明確に
・教育委員会の人的、財政的なゆとり
・協議の進捗状況の情報発信（成果も課題も）
・統合後の学校と地域との関係づくり（学校支援ボランティア　等）

（４）シンポジウム概要

【コーディネーター】自己紹介を兼ねて適正配置についての意見をいただきたい。

【シンポジスト】振り返ってみて、統合について最も大切に考えたいのは、子どもを第一に考えて議論することであると思う。

【シンポジスト】智頭町から来た。智頭小学校前ＰＴＡ会長をしていた。統合時の会長ということになる。その前の２年間は、保護者の意見をまとめる保護者部会の代表をしていた。１００％の合意は難しいと感じながらも受けることとなった。

【シンポジスト】倉吉市小学校ＰＴＡ連合会長をしている。統合の話の中では、単Ｐから出てきた意見をまとめようといった考え方でやっている。平成２４年度山守小学校のＰＴＡ会長をしていた。今年度は、倉吉市小学校ＰＴＡ連合会長をしている。適正配置については、１００％の合意は難しいと感じている。早期の解決は難しいと感じている。慎重に考えて欲しいと感じている。

質問であるが、地域とのつながりを考える上で、この適正配置は重要な問題である。統合前の賛否両論、また、通学等の不安をどのように解消したの

か伺いたい。
　また、統合にあたって、準備委員会の設置はどのように行われたか、統合してよかったこと、課題を伺いたい。
【シンポジスト】倉吉市中学校・養護学校ＰＴＡ連合会長をしている。
　議論はいろいろあるが、ある程度の人数の中で、切磋琢磨していくことが必要であると考えている。また、最も懸念するのは、少子高齢化である。今後予算が削減されることが心配である。財政的なことを考えても、再編は必要ではないかと考える。
　中学校においては、部活動が思うように組めないといった問題もある。運動会でも、団体種目に人数的な限界が出始めている。
【シンポジスト】倉吉幼稚園の保護者。幼稚園・保育園の保護者の代表として参加した。以前、幼稚園のＰＴＡ会長をしており、その時に学校教育審議会にも参加していた。
　適正配置については、幼稚園・保育園の保護者にとっても関心のあることである。たくさんの人数の中で学ばせたいといった考えが多い。適正配置が行われた場合、長距離通学についての心配をしている。特に下校時についての心配が大きい。
【シンポジスト】明倫地区公民館長。今日は、個人としてではなく、全地区公民館、地域の皆さんの代表として参加したと考えている。基本的に地域には学校は必要であると考えているが、統合後は、その学校が地域の学校である。「未来を考えるか、歴史を考えるか」と最近ある先輩から問われた。この問いが印象に残っている。未来を担う子どもたちといった視点も重要であると思う。
【コーディネーター】１００％の合意が難しい中で、どのようにして、統合に向けて話し合いを進めてきたか。
【シンポジスト】意見を出しやすくするために、テーマを決めて話し合いを進めてきた。「通学に関すること」「統合後の組織について」「持ち物に関すること」「学童保育の運営について」という４つの小部会の中でディスカッションをしてとりまとめるという手法をとった。全体会の下にこうした小部会を位置づけた。自分は、全ての会に出席していたので、週に２・３回は会に出ていた。週末は、議事録をまとめるという作業が１年半続いた。
【シンポジスト】保護者、地域の皆さんとも、小規模校の良さはあるのではないかといった意見はあったが、統合はやむを得ないといった感じはあった。吸収合併ではなく、一から新しい学校を創っていこうといった意識があった。
【コーディネーター】倉吉のシンポジストから質問はあるか。
【シンポジスト】智頭町という広い町で、地域はどのような連携をとっている

のか。

【シンポジスト】６小学校のうち、旧智頭小学校以外の５小学校の活用について、企業や地域振興協議会が入ったりしている。統合前は、「地域から小学生がいなくなったらさみしい。」といった意見はあったが、小学生は、土日には地域で遊んでいる。公民館では、さまざまなことを考えて活性化していこうとしている。

【シンポジスト】支部として、旧小学校単位で、小学生が参加する取組を可能とする形を取っている。公民館活動とのタイアップで地域と子どもたちとが交流を図るということで、つながりを重視した。ＰＴＡの本会計から活動資金を出している。支部でスキーに行ったり、旧小学校の校庭でバーベキュー大会をしたりしている。学校がなくなるから、地域がさみしくなるのではなく、どのような地域をつくっていくのかを考えていくことが重要である。結果、７０代、８０代の高齢者が地域の活動に参加し始めた。埋もれていた地域の人材が活躍し始めたと言える。

【コーディネーター】では、会場の皆様から、ご意見を伺います。

【市民】資料の中の５ページ、「住民一括統合」ではなく、「存続」を希望している。

【教育長】承知している。答申そのままということで了解いただきたい。

【市民】智頭町の話を聞いていると、成功事例としてお話しいただいていると感じる。倉吉市は、事情がちがうはずである。小学校だけでなく、幼稚園、保育園、小学校、中学校を一体として考えていくべきであると思う。どの時点で合意形成をいかに実現していくのかが、重要である。住民の意見を十分に吸い上げて欲しい。また、少子化対策を施策として考えていくべきである。

【市民】参加者が少なくて残念。地域の文化祭等と重なっての開催が大きな原因であろう。どうしてこの日に設定してしまったのか。

　智頭町の話は参考になったが、もう少し身近な話も聞きたかった。

【市民】智頭町の動き、大変参考になった。倉吉市の場合は、昨年度突然新聞で統合の話が出てきた。上小鴨小学校は、たしかに児童数は少ないが、１００名弱の児童がいる。先進諸国を考えると、「２０名以下の学級を」といった考え方で進めている。倉吉市は考え方が逆である。どうしてなのか。財政的な問題であれば、最初からそのことを言えば良いのではないか。

【市民】氏橋参事の話に、統合後の教室では、いろいろな意見が出るようになったといったことがあったが、それは、教師の授業の在り方の問題であって、少ない人数の教室でも多様な意見は出せるのではないか。問題のすり替えではないかと感じる。

【シンポジスト】たくさんの意見がでる授業は確かに楽しい。旧山郷小学校では、「山郷杉太鼓」が、統合後、地域の中で存続している。統合前は、総合的な学習の時間等の中で、学ぶことすらなかったことだが、統合後は学ぶようになっている。地域の良さに意識が向き始めたと感じる。

【コーディネーター】やはり、ある程度の人数は必要であると思う。その中で力が盛り上がってくるといったこともあると思う。

【市民】上小鴨小学校は、当初、二つに分けて関金小と小鴨小へ統合といった提案であった。その後、すぐに統合問題再編協議会を立ち上げた。こうした会で、さまざまな機会をとおしてこのことについて話し合い、考えてきた。町内学習会でも取り上げたが、まだまだ住民の皆さんには十分伝わっていないと感じる。一般市民は、学校再編により、財政面で浮いたお金で他のことがたくさんできるようになるのではないかという意見があるが、実のところはどうなのか？また、智頭町ではどうか？

【シンポジスト】財政面には直接関わってないので、答えることができない。

【コーディネーター】倉吉市の場合は、まずは、子どもたちにとってどうなのかということを考えていると思う。シンポジストから、これを伝えたいということを述べて欲しい。

【シンポジスト】智頭町の話を聞くことができて、統合までの流れがわかりよかった。教育委員会にも感謝している。適正配置については、まだまだ不安や課題があると感じる。今後も話し合いの機会を持って欲しいと思う。

【シンポジスト】これまでこのように真剣に、倉吉の子どもたちのことについて考えてきたことはないのではないか。「倉吉の子どもをどうしていくのか」についてこれからも考えていきたい。

【シンポジスト】児童数の減少のしかたはすごい。再編については、すぐにというわけにはいかないと思う。今の校区を一度ばらばらにして、もう一度組み直しても良いのではないかという意見も聞く。さまざまな意見を聞きながら、良い結果を出していきたいと思う。

【シンポジスト】子どもの成長ということが第一であると考える。公民館同士の連携もさかんになってきている。今年の例でいくと、成徳、明倫、小鴨、上小鴨の青少協でスキー合宿をやろうという公民館同士の連携を図っている。こうした連携が子どもたちを育てていくのではないかと感じる。総論と各論とをきっちり整理して話し合う事が必要ではないかと感じる。

【シンポジスト】財政の話もあったが、保護者部会を進めるにあたって、一番に考えたのは、子どもたちにとってどういった教育効果を期待するのかということであった。その目標に向けて、通学、体操服等、具体的なことを話し合ってきた。付随して財政面での話も出てくるが、目標と方策の順番を間違

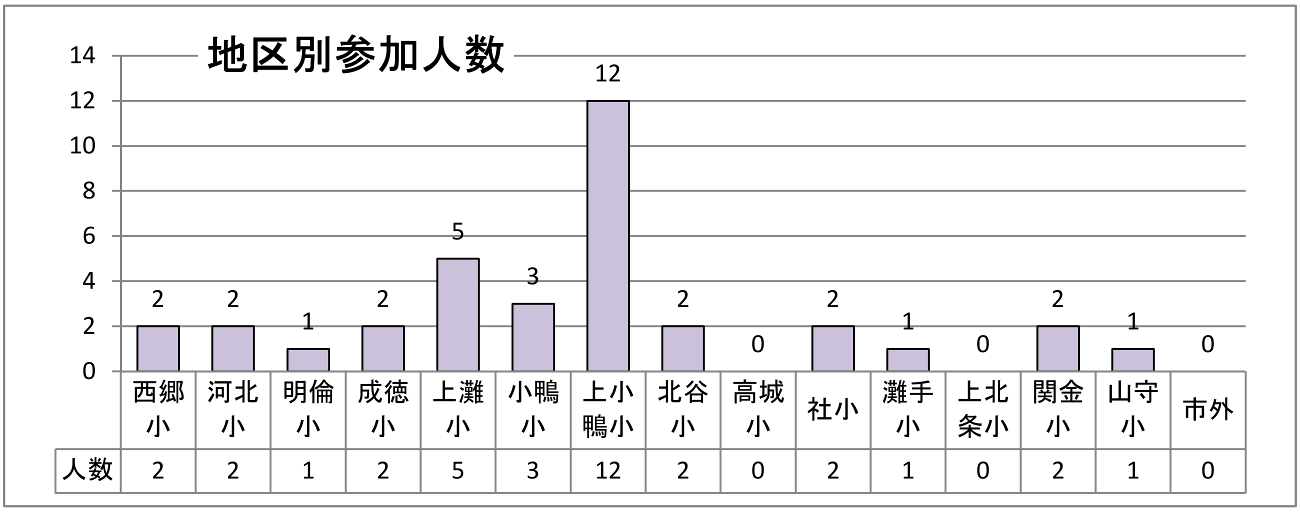
えると話は進まないと考えている。目標設定が最も大切であると思う。

【シンポジスト】通学方法についての話し合いに時間を割いた。子どもたちは路線バスを利用している。保護者からは、バスを学校前に停めてくれといった意見が出て、その通りになったが、体力の低下が心配された。しかし、低下は見られなかった。また、バスの中には、保育園、小学校、中学校、地域の人たち、たくさんの人が乗っている。そうした中で、中学生が小学生を注意する姿も見られる。

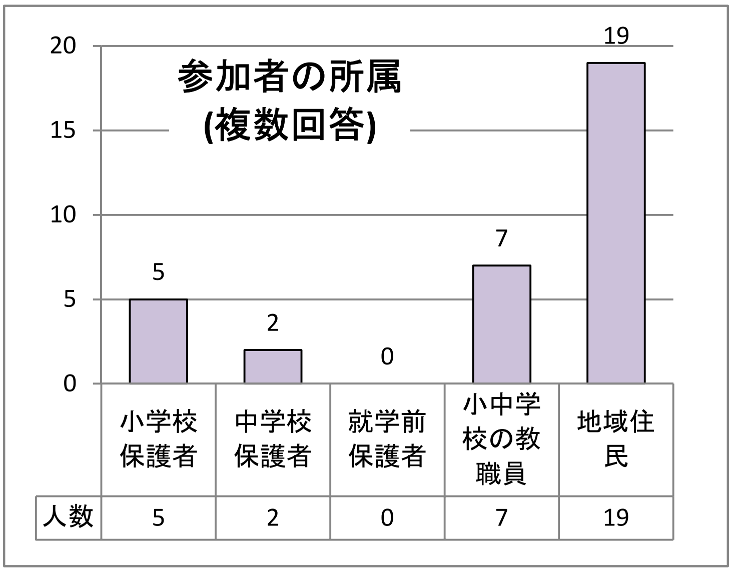
【コーディネーター】議論は慎重にすべきである。しかし、この話を１０年、２０年続けていて良いものであろうか。倉吉市の子どもたちのためにどうすることが良いのかを議論し、結論を出していく必要がある。場合に応じて、果敢に時代の変化に対応していくことが重要であると考える。以上でシンポジウムを終わります。

（５）伊藤委員長あいさつ

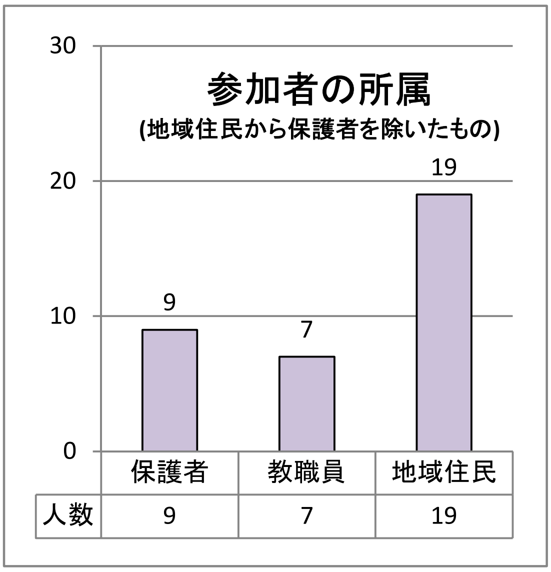
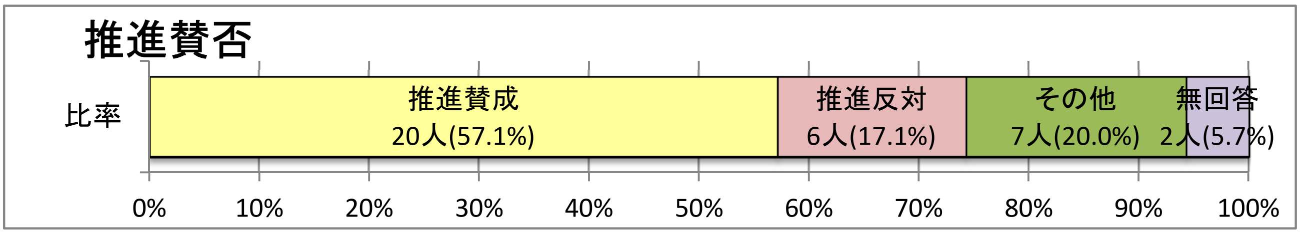
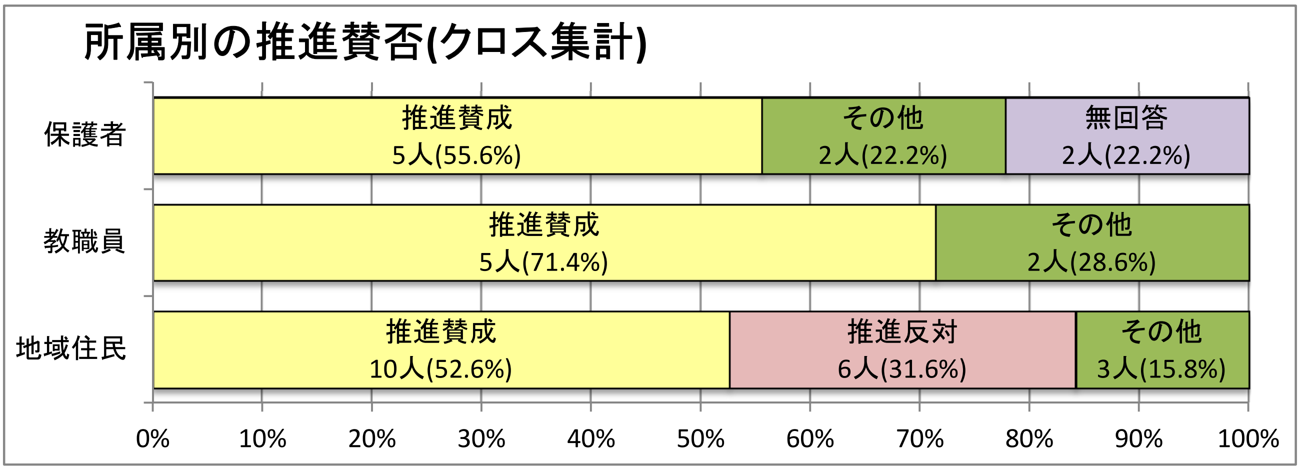
倉吉市民シンポジウムアンケート結果（回収35名／参加53名）



	西郷小	河北小	明倫小	成徳小	上灘小	小鴨小	上小鴨小	北谷小	高城小	社小	灘手小	上北条小	関金小	山守小	市外
人数	2	2	1	2	5	3	12	2	0	2	1	0	2	1	0



	小学校保護者	中学校保護者	就学前保護者	小中学校の教職員	地域住民
人数	5	2	0	7	19



	保護者	教職員	地域住民
人数	9	7	19